

IBRO satellite Symposium on Biological Clock in the Suprachiasmatic Nucleus.の報告

井上慎一
山口大・理学部

この夏、世界神経科学会の大会である第4回 IBRO World Congress が京都で行われた。この機会に視交叉上核の研究者を集めて京都で行った Satellite Symposium (1995. 7.15- 7.17) のことを報告したい。

Biological Clock in the Suprachiasmatic Nucleus と題したこのシンポジウムはその名のとおり、視交叉上核に話題を限定した少人数のディスカッション中心のフォーラムを持ちたいと京都府立医大の井端先生を中心に企画した。そのため、最近世界中で行われたたくさんのリズムのシンポジウムの中でも特徴のある構成になったように思う。

7月15日のお昼から開始され、井端先生の開会の挨拶に続いて、Moore, Swaab, それに Albers の講演があった。Moore は視交叉上核の腹外側にある VIP の存在する領域を Core, そのまわりの AVP の多い領域を Shell と呼ぶ提案をしていた。VIP が重要だとする考えには私には違和感があるが、会場の雰囲気は好意的であったように思えた。Swaab は人間の死後脳による視交叉上核の研究について、Albers は視交叉上核の GABA について新しいデータをたくさん含んだ話をした。石田さんが視交叉上核の IP 受容体の話をした後、イギリスの Coen は Differential Display 法で視交叉上核に特異的な遺伝子を見つけた話をした。私は例によってペプチドのことを紹介し、イスラエルから来た Yarom は電気生理で

セロトニンの役割を調べていた。デンマークの Mikkelsen は pretectum から視交叉上核への連絡について示した後、最近話題の ICER について新しいデータを見せていた。薬理的にセロトニンについての精力的に研究を展開している Rea は大変たくさんの実験データを示し、神戸の岡村さんは VIP について話した。オランダの Mirmiran は視交叉上核の電気生理について結果をまとめ、チェコから来た Illnerova は視交叉上核の c-fos の発現が光周期によって変わることを示した。2日目の午前のセッションは高橋清久さんのセロトニンとフリーラン周期の関係についての話で締めくくられた。午後はドイツの Wollnik が c-fos アンチセンスを Jun-B アンチセンスと一緒に脳内にいれると光による位相変位がブロックされることを話してから、Schwartz が IGL に発現する c-fos のデータを初めて紹介した。早稲田大学に移られた柴田さんはスライスでの薬理的実験の話をもとめた。Strasbourg の Massone-Pevet は melatonin receptor の時間変化について話した。続いて阪大の永井さんは VIP と自律神経系について年来の仕事をまとめた後、トキシシンを使った新しい研究のデータを紹介した。本間さとさんは人間での non-photoc entrainment の話をした。会場をわかせたのはゲストとして参加していただいた睡眠研究の大御所 Jouvet の講演で、彼はこのシンポジウムのために猫

を使って視交叉上核にリズムのセンターがあるかどうかの実験をした結果を述べた。三日目は朝早くから Pevet のセロトニンと non-photic entrainment の話と井端さんの猿の視交叉上核の講演を聴き、その後参加者の多くが、折から行われていた祇園祭の山鉦巡航の見物に出かけた。

視交叉上核の研究は派手な分子生物学の研究の陰になっている感じは否めないが、これだけのメンバーが集まるとさすがに着实に進んでいる研究の足音を聞く思いがした。実際の研究を推進している中堅の研究者がたくさん参加してくれ、しかも初めて発表したデータも少なくなかった。人数も限定したのでディスカッションが活発に行われた。これらのことが総合して、それぞ

れの参加者にとって実りの多い、大変気持ちの良いシンポジウムができたように思う。遠く物価も高い日本へわざわざこのシンポジウムに参加するためにこられた方も少なくない。そのような友人たちには感謝のしようがない。お世話くださった井端先生、岡村先生、それに京都府立医科大学の学生さんたちにも深く感謝したい。またこの集会のためにご寄付をいただいた各企業等にお礼を申し上げたい。(付記：もしこのシンポジウムに参加されなくて興味がおありの方は、抄録が少々余っておりますのでおわけいたします。神戸大学医学部解剖学第二講座岡村先生まで Fax (078-341-5248) にてご連絡下さい。)



リズム専門の欧文雑誌への投稿のお願い

井上慎一

山口大学理学部

時間生物学の研究に携わっておられる皆様はその成果をいろいろな雑誌に投稿して、世界の研究者にその知識を広く知ってもらおう努力をしておられるものと思います。そのときできれば自分の論文を一人でも多くの人に読んでもらいたいと考えるのが普通です。そのためにはよい、大勢の人が見る国際誌を育てていかなければいけないと思っています。そこで私がお手伝いしている2つのサーカディアンリズム専門の雑誌について会員の皆様にお知らせし、ご協力をお願いできればと思っています。これをきっかけにこれらの雑誌に、質の高い、これはと思う自信作を投稿して頂きたいということと、貴大学、病院などの図書館に購入を薦めてほしいという二つをお願い申しあげます。

Journal of Biological Rhythms

Journal of Biological Rhythms (JBR) は1986年に創刊された雑誌で今年で10年の歴史を持っています。この雑誌はアメリカのリズムの学会である Society for the Research on Biological Rhythms (SRBR) の機関誌で、会員になると自動的に雑誌の購読が始まります。もちろん雑誌だけを購読することもできますが学会会費個人と雑誌購読料(\$75)の差は\$10程度ですから、SRBRの会員になることもよいと思います。SRBRは2年に一度大会を開催し、そこでは世界中から研究者が参加し、分子生物学から人間の臨床リズムまで

20ほどのシンポジウムがおこなわれ、200を超えるポスターが4日間にわたって発表されます。会員になるとここで研究を発表する資格が与えられます。SRBRの会員になるためには申込書と履歴書、業績目録とを本部のあるバージニア大学 Center for Biological Timing (Society for Research on Biological Rhythms, Gilmer Hall, University of Virginia, Charlottesville, VA 22901, USA)に送ることが必要になります。申込書は私のところでも保管していますので電子メール(inouye@ccyi.ccy.yamaguchi-u.ac.jp)をくださればお送りいたします。履歴書、業績目録は英語で作っていただくのが原則ですが、もし日本語のものしか用意できないようでしたら私にご相談ください。SRBRの大会は来年5月にフロリダで、Irving ZuckerをPresidentに行われることがまっています。

さて雑誌の方ですが、Journal of Biological Rhythmsはことし、大きな変革を遂げました。まず出版社がSAGE Science Pressに変わりました。それに伴って雑誌の大きさが大きくなりUS Letter sizeになりました。また編集長がBenjamin RusakからFred Turekに変わりました。編集委員会ですらいろいろ議論をした結果、編集方針も少し変更され、今まで動物の基礎研究が中心だった内容を人間の臨床や応用にまでひろげることになりました。実際、今年の第2号にはLight Treatment for sleep

disorders の特集が載っています。一年のページ数も増やす予定で原稿を集めています。もし JBR のみを購読いただく場合は SAGE Publications(P. O. Box5084, Thousand Oaks, CA., 91359-9924, U. S. A.)に直接申し込んでください。この支払いはクレジットカードでもできますので手間がかかりません。どの雑誌でもそうですが、よい研究を投稿していただくことがその雑誌の評価を高め、研究者の活躍の場を広げることになります。引用される数を雑誌で平均した Impact Factor は 1993 年の JBR 論文では 2.5 ですから、Brain Research の 2.7、Biological Psychiatry の 2.2、Sleep の 1.5 などと比べても遜色ありません。それだけ referee の基準も厳しいですが、是非投稿していただければと存じます。SRBR の全会員が読んでいますのでから挑戦してみる価値はあると思いませんか。

Biological Rhythm Research

Biological Rhythm Research は 25 年にわたる、JBR よりずっと古い歴史を持ち、2 年前までは Journal of Interdisciplinary Cycle Research として親しまれていたものです。編集長がオランダの Rietveld に変わって、よりリズムの研究に重点を置くことを強調するために誌名を Biological

Rhythm Research に変更しました。実はこの雑誌も European Chronobiology Society の機関誌です。外国の学会がレベルの高い機関誌を持っているのを見ると、日本でもいつか欧文の雑誌を刊行したいと思わざるを得ません。Biological Rhythm Research はユニークな編集方針を持っていて、なるべく多くの国から、違った分野の研究を広く載せることにしています。そのため、臨床のケーススタディーから純粹に数学的なモデルの話まで載っています。ただ編集長の Rietveld の考えもあって、医学的な仕事の比率が高くなっていますのでその方面のヨーロッパの動向を知るためには欠かせない情報源になっていますので、是非図書館で購入していただければと存じます。出版社は Swets & Zeitlinger, P.O. Box 825,2160 SZ Lisse, The Netherlands です。編集長の Rietveld に連絡をとくためには 31-71-276782 に fax するか、rietveld@rullf2.leidenuniv.nl に電子メールを出してください。

科学雑誌は読む人と投稿する人によって育てられるものですし、良い雑誌を持つことは結局その分野の進歩にも寄与するものです。リズムを専門にする開かれた国際誌であるこの二つの雑誌を育てていただければと存じます。